

応用動物行動分析学を知る

Knowing Applied Animal Behavior Analysis

《企画・司会》中島定彦 Sadahiko Nakajima (関西学院大学 Kwansei Gakuin University)

《話題提供》杉山尚子 Naoko Sugiyama^{*1}、杉崎一彦 Kazuhiko Sugisaki^{*2}、山本央子 Nakako Yamamoto^{*3}

^{*1} 山脇学園短期大学 Yamawaki Gakuen Junior College

^{*2} アトリエ・ファルコノイド・ファルコンリー・アカデミー主宰・鷹匠 Atelier Falconoid Falconry Academy; Falconer

^{*3} 帝京科学大学非常勤講師・家庭犬育成指導 Teikyo University of Science & Technology; Dog Training & Handling Instructor

《指定討論》眞邊一近 Kazuchika Manabe (日本大学大学院 Nihon University)

Key Words: Animal Training, Dogs, Falcons

オペラント条件づけを中心とした行動分析学の知識や技術は、障害児・者の学習・自立支援、企業の業務能率改善、スポーツの成績向上などさまざまな場面で活かされている。その1つに、犬のしつけやイルカショーなどの動物訓練がある。本シンポジウムでは、そうした応用動物行動分析学(applied animal behavior analysis)を紹介する。まず、杉山が応用動物行動分析学の歴史と現状を解説する。続いて、猛禽類の訓練を専門とする杉崎と、家庭犬の育成指導を専門とする山本が、動物行動分析学の実践家として、現場での取り組みを紹介するとともに、問題を提起する。指定討論者の眞邊は、提起された問題への回答と、応用動物行動分析学への期待を語る。

このシンポジウムによって、動物行動分析学の実践家と他分野の行動分析家との交流が盛んになることが期待される。話題提供者の講演内容は以下の通り。

杉山尚子「応用動物行動分析学の歴史と現状—行動分析学はどのように貢献できるか」

軍用犬や警察犬、サーカスや猿回しなど、動物のトレーニングには長い歴史がある。一方、スキナーが行動の原理を整理することによって、動物のトレーニングには新たな地平が開かれた。スキナーのペリカン計画、ブレランド夫妻とベイリーの動物行動興業社、プライアのイルカの訓練、日本のしつけ訓練の歴史と現状、ABA-IのApplied Animal Behavior SIG、日本のしつけ訓練の現状を概観するとともに、行動分析学が今後この分野にどのように貢献できるのかを問う。

杉崎一彦「猛禽類訓練の行動分析学的理解—訓練の方法」

猛禽類訓練の意義(実猟・環境教育、野生傷病猛禽類のリハビリテーション、競技)と歴史を述べた後、猛禽類の訓練に関する行動分析学的説明を提供する。さらに、行動分析学に基づいた猛禽類訓練の具体的方法(馴致訓練の方法、行動学習の方法、行動操作の方法、悪癖学習回避・修正の方法、実猟の方法)を、鷹類の場合と隼類の場合について、ビデオ映像を用いて紹介する。

山本央子「家庭犬の育成に行動分析学はどのように寄与できるか？」

犬に噛まれると痛い、愛犬に噛まれると「心」も痛い…。愛玩動物、家庭犬、ペット・ドッグ、コンパニオン・アニマル。たとえ呼び名がどう変わろうが、犬は私たち人間を傷つける鋭い牙を持つ動物である。人間の暮らしの中で犬が、憩いになるのか、疫病神になるのか、その責任は全て犬ではなく、私たちが負うところである。犬の好ましくない行動を叩いて脅して弱化するのも、好ましい行動を褒めてご褒美で強化するのも、すべてオペラント行動の原理に基づいている。今から約20年前、わが国の犬のしつけやトレーニング方法は前者から後者へと転の試みが始まった。しかし、現在も権勢症候群への信仰は根強く、行動の随伴性による行動観が定着しないのは何故か、以下に焦点を置いて人と犬の関係を考えてみたい。「人は何故、権勢症候群に惹かれるのか? : 医学モデル vs. 随伴性による行動観」「飼い主から専門家まで、なぜ食物を強化子として用いることを、忌み嫌うのか?」「犬と暮らす人間の安全は、人間と暮らす犬の安心から: 環境設定と学習」「どうして犬に(犬だけに)、お座り、伏せ、お手、を教えるのか?」「飼い主と犬の絆とは? : 絆を築く方法」。

Bailey, B., & Bailey, M. (1996). *Patient like the chipmunks* (ver. 2). Hot Springs, AK: Animal Behavior Enterprises.

D.I.N.G.O.(監修)・石綿美香(訳) (2008). シマリスのように忍耐強く. リッチフィールド・ネットワークス.[DVD]

Breland, K., & Breland, M. (1951). A field of applied animal psychology. *American Psychologist*, 6, 202-204.

McGreevy, P., & Boakes, R. A. (2007). *Carrots and sticks: Principles of animal training*. Cambridge: Cambridge University Press.

中島定彦 (2002). アニマルラーニング—動物のしつけと訓練の科学. ナカニシヤ出版.

中島定彦 (2008). アニマルラーニング. 子安増生・二宮克美(編), キーワードコレクション心理学フロンティア (pp. 46-49). 新曜社.

Pryor, K. (1984) *Don't shoot the dog!: The new art of teaching and training*. New York: Bantam. 河嶋孝・杉山尚子(訳) (1998). うまくやるための強化の原理—飼いネコから配偶者まで. 二瓶社.